



□ 喜多院

星野山喜多院はかつて関東天台宗総本山で、慈覺大師の創建といわれる。慶長4年(1599)第27世住職の天海は、徳川家康に深い学識を認められ、秀忠・家光と3代の将軍に仕えた。境内の建造物はほとんどを寛永の大火(1638)で焼失するが、家光の援助により江戸城紅葉山の別殿を移築して再興された。現在の客殿、書院、庫裏がそれにあたり、この頃に建てられた堂塔のほとんどが国、県の文化財となっている。境内の照葉樹林も残り少ない自然系の樹林として貴重な存在であり、桜とともに四季を通じて史跡を訪ね行楽に集う人々が絶えることがない。

